一身田の新聞

発行
一身田地区
社会福祉協議会

編集者
岡本博和

自主防災協議会会長が地震や災害に備えようと訴える
バングラデシュから一身田へ　投稿いただく
スポーツ・芸術・文化の秋　一身田も盛りだくさん

南海トラフ大震災に備えよう！

一身田水害の奇跡をもう一度

一身田地区自主防災協議会　会長　岡野勇治

いつ来てもおかしくない大地震。異様な兆候は今も続く。地震だけではなく短時間大雨、ゲリラ豪雨は今夏も日本列島に甚大な被害をもたらした。そのような現状の中、一身田地区自主防災協議会会長岡野勇治氏に投稿を頂いた。

私たちの住む津市は、元来、幾つもの河川が流れ込む低湿地に発達してきた町で、水の被害を受けやすい土地と言われてきました。一身田も例外ではなく、昭和30年代から昭和40年代にかけて志登茂川、毛無川、横川等が氾濫して度々、道路、家屋等が浸水に見舞われました。特に昭和49年7月25日は、かつてない集中豪雨によって、これらの河川が一挙に氾濫して、瞬く間に町内の道路は急激な流れの川と化してしまいました。その被害は、一身田・栗真・白塚地区を中心に床上浸水4317棟、床下浸水8213棟、田畑冠水1080㌶、被災者数40808人でした。

しかし、人的被害は軽傷者二名に留まり、まさに「一身田の奇跡」と言っても過言ではありませんでした。当時の状況を知る者にとっては、防災関係者の尽力に敬意を表する次第であります。

ところで、マグニチュード8～9という南海トラフ大地震が、過去の大震災の発生周期から予測すると、30年以内に70％の確率で発生すると言われています。

かに料理店　栄屋　付近

私たち、あるいは次の世代にとって避けることのできない大震災です。その被害予想は、一身田地区でも建物の全壊2205棟、火災被害468棟、死者208人、負傷者263人、避難者数15234人というとてつもない数字が算出されています。（津市防災マップより）

行政では、こうした南海トラフ大地震による甚大な被害が想定されている地域にとっては、災害の備えが非日常的な特別な活動ではなく、日々の生活と一体となった当たり前の活動となること、すなわち「防災の日常化」を意識しながら、備えを進めていく必要があるとしています（みえの防災活動事例集より）。

一身田地区自主防災協議会としましては、共助の分野をさらに進化させ、各ご家庭でも「家屋の耐震化」「家具の転倒防止」「3日以上の飲食料品の備蓄」などを進めていただくという自助の分野のさらなる充実、また、学校区で行われる「避難訓練や防災講演会」等に積極的にご参加いただき、ご家族全員で近い将来発生するであろう大地震への備えに万全を期していただきたいと思います。そうした共助、自助の一層の充実、進化をもって一身田地区における人災を限りなく0に近づけることを努力目標として取り組み、昭和49年7月に次ぐ、「一身田第二の奇跡」を皆様とともに実現したいと強く願っています。

投稿

バングラデシュから一身田へ

一身田中野在住　イスラム　ディダル

私は、10年前にバングラデシュから日本に来ました。日本にはすごく親しみを持っていました。それは、バングラデシュの国旗が日本の国旗のデザインとよく似ていたからです。日本の国旗の白い部分が緑色になっています。

バングラデシュは、昔「東パキスタン」でしたが、1971年に母国語のベンガル語を守るため立ち上がり、現在の「バングラデシュ」ができました。人口は、約1億6千万人、その87％が「イスラム教徒」で、私たち家族もイスラム教徒です。面積は日本より小さい国です。

私は6人兄弟姉妹の長男で、家族を支えるために大学卒業後、6年間営業の仕事をしましたが、バングラデシュでの稼ぎでは家族を守るのは難しかったです。そんなときに、日本で仕事をするチャンスをいただきました。祖父から日本のことを聞いていたので、日本に行くことが決まった時はわくわくした思いと日本語が話せない不安な思いがありました。でも、日本の職場の方が親切に日本語を教えてくれ、少しずつ覚えていくことができました。

日本に来た時の目標は、お金を貯めて帰国することでしたが、妻と出会ってから考えが変わりました。「バングラデシュの家族を一緒に支えよう」と妻の家族みんなが私を受け入れ支えてくれました。子どもも授かり、日本で家族を持つこともできました。そして、3年前に一身田中野に引っ越してきました。津は海や山があり、母国と似た風景でとても好きです。また、一身田はたくさんの歴史を感じさせてくれる街並みで以前から好きでした。ここなら、子どもも豊かに成長させることができると思いました。三重大学の近くにはイスラム教徒の拝礼の場所（モスク）もあり、「バングラデシュの文化」と「日本の文化」を子どもに教えたいと考えているのでとてもいい環境です。

イスラムさん家族

一身田の皆さん、町で私たち家族に出会ったら、どうぞ気軽に声をかけてください。また、私たち家族も一身田の活性化にむけ、少しでもお手伝いできたらと思っています。

最後に、このように一身田の皆様に発信できる機会を与えて頂いたことに感謝いたします。

一身田地区社協

「ほっとサービス」を運用

利用会員、協力会員を募集

津市社会福祉協議会は、新しい事業「社協ほっとサービス」を実施しています。このサービスは、日々の生活の中で少し助けてほしいと思っている方たちの生活をお手伝いし、安心して暮らしてもらおうというもので、地域住民同士の助け合いという『つながり・支え合い』をより進めていこうとする事業です。

サービスの内容には、食事の支度や住居の清掃、衣類の洗濯・補修、生活必需品の購入代行、簡単な家屋家財の修理、医療機関への連絡などがあります。『お互いさま』を合言葉に地域の問題は地域で解決するようなつながりを、この一身田地区でも創っていきたいものです。そのためにもサービスを提供していただける方の応募をお待ちしています。

日常生活の中で不便を感じ、誰かの手助けを必要とされている方々を同じ地域に住む者で支えていきませんか。

詳しくは津社協まで
☎213－7111

寺内町まつり

とき　11月12日（日）

「しあわせ和婚」も同時共催。若いお二人を祝福しよう！

寺内町まつり　（昨年の写真）

寺内町を人力車でパレード

一身田公民館文化祭

講座生の力作がズラリと

一身田地区の文化の秋を象徴する「公民館文化祭」、講座生の力作をご覧ください。高田保育園児によるマーチングバンド、バザー、健康相談、喫茶、軽食コーナーも設けます。また、高田会館での発表会には、お楽しみ抽選会もあります。

▼とき　10月21日・22日
28日
▼ところ　一身田公民館
寺内町の館
高田会館
詳しくは公民館まで
☎232－2108

高田学苑で防災訓練

桜町、北区、中区、東区の4自治会による防災訓練が9月6日、高田学苑で行われた。

同学苑は、津市の防災避難所に指定されており、体育館のキーボックスは震度5以上で自動で開扉される。

今回の訓練は、天候不順のため体育館で行い、車いすの使い方、倒壊家屋での助け出し方、避難所でのエコノミー症候群の予防体操、などを学習した。

津市防災危機管理室、高田福祉事業協会、非常食推進機構の協力を得た。

敬老のつどい

9月17日（日）行われる予定だった「敬老のつどい」は台風18号のため、本年度は中止となりました。

一身田地区年代別人口　H29.8月現在

	男	女
65～69才	409（人）	457（人）
70～74才	306	443
75～79才	305	367
80～84才	216	330
85～89才	126	191
90～94才	28	90
95～99才	7	35
100才以上	0	0

【参照】　一身田地区男性平均年齢42.7才
一身田地区女性平均年齢45.7才
一身田地区90才以上男女計160人、100才以上は0人
外国人含む

写真で見る 一身田のできごと

2017.7月～9月6日まで

7月6日　尾鷲市防災センターを視察研修しました

7月8日　一身田七夕まつりが行われました

8月12日　本山境内で盆踊り大会が行われました

アンドン、折り鶴コンクールも行われました

7月22日　町民グランドゴルフ大会が行われました。参加者130人

9月6日　高田学苑で防災訓練が行われました

試食会　車いすの正しい乗り方

倒壊家屋での救助方法

エコノミー症候群についての学習会

9月17日　敬老のつどいは台風のため中止となりました

9月24日　町民運動会は原稿〆切のため記載できませんでした

一身田の新聞は赤い羽根募金の
助成金で作られています